2023年3月31日発行　通巻472号　ISSN1882-9643

JSAF

J-SAILING
JAPAN SAILING FEDERATION

2022 YEARBOOK

NO.118

www.jsaf.or.jp

YANMAR

A SUSTAINABLE FUTURE

テクノロジーで、新しい豊かさへ。

人が、いつまでも豊かに暮らせること。
自然が、いつまでも豊かでありつづけること。
その2つの「サステナビリティ」をどこまでも追求し、高い次元で両立。
次の100年へ、新しい豊かさの実現に貢献していきます。

yanmar.com

写真／中嶋一成 LAYLINE Media

2023 年度 JSAF 方針について

公益財団法人 日本セーリング連盟専務理事　安藤 淳

去る 2023 年 2 月の日本セーリング連盟（以下、JSAF）理事会において専務理事に選任されました安藤淳です。川北前専務理事の辞任に伴い、残任期の 2024 年 6 月まで専務理事の職務に当たります。会員皆様のご指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

2 月 25 日 JSAF 理事会において承認されました JSAF の 2023 年度方針を、以下ご説明申し上げます。

皆様ご高承の通り、2019 年度後半からの未曽有の新型コロナ禍への対応も、ウィズコロナの新しい日常を考えて行く時期にあります。また、目まぐるしく変化している国際情勢や経済環境もスポーツ界に様々な影響をもたらしています。セーリング界においても、新しい時代と新しい生活様式、多様な価値観に合わせて変わっていかなければなりません。

昨年度は、馬場益弘会長のもと、組織基盤強化や勝ちに行くコーチング体制、日本パラリンピック委員会への加盟など、様々な新しい体制に移行しました。今年度は、いよいよ具体的活動を推進する年となります。

セーリングは、「自然環境の中で、男女を問わず、年齢を問わず、障がいの有無に関わらず、一緒に楽しめる。また、誰もが自分に合った楽しみ方ができる」という価値を持つインクルーシブなスポーツです。そのために、セーラーはジェンダー平等と障がい者参加を含む DEI（Diversity, Equity & Inclusion：多様性・公平さ・包括）や環境保全に強い関心を持っていると確信しております。

JSAF は、「セーリングスポーツの価値」を活力の源泉とし、JSAF ビジョン「セーリングをもっと楽しく Maximize fun of sailing」の実現に向けセーリングスポーツの国内認知度を更に高め、セーリングスポーツのより一層の普及・振興・発展のために、会員の皆様と当連盟へ加盟する団体とともに、連盟の総力を結集して、DEI や環境保全を推進し、先進的な競技団体になることを目指します。また、セーリングスポーツの魅力発信、社会共生、収入源増加にむけた新しいチャレンジを皆様とともに行ってまいります。

なお、上記方針に基づいて、2023 年度の具体的重点施策を、JSAF ビジョンに定めた、1）もっと身近になる（Easy Access）、2）関わり続ける（Open Community）、3）もっと強くなる（High Performance）のカテゴリー毎に、合計 16 項目を定めております。

以上、2023 年度 JSAF 方針のご説明をさせていただきました。皆様とともにこの方針に基づき、重点施策に取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力を改めてお願い申し上げ、専務理事就任のご挨拶とさせていただきます。

JSAF ビジョン詳細は
公式サイトから

スポーツくじ
私たちはスポーツ振興くじ助成を受けています。

❶レース海面はマリーナの目の前。たくさんの人が広島観音マリーナのデッキテラスから熱戦の様子を見守った ❷地元広島から参加したあびの会のメンバー。大会最終日、レース委任長と笑顔で記念撮影 ❸ハンザ303シングルクラスに出場したJens Kroker選手（イギリス）は終始笑顔で大会を楽しんだ ❹リバティサーボクラスで2位となったChristina Rubke選手（アメリカ）。四肢が不自由な彼女は顎で操作ボタンを扱いレースを楽しむ ❺ハンザ303シングルクラスで世界ランキング2位の選手を押さえ銅メダルを獲得した丹羽巧選手 ❻リバティサーボクラスの優勝のVera Voorbach選手（オランダ）。国際ハンザクラス協会会長でもある彼女は後ろを向くことが困難なためバックミラーを取り付けている ❼車椅子セーラーはポンツーンに取り付けたリフトを使って乗船する ❽夕日が沈む海を一望するデッキテラスで行われた表彰式。大会期間を通して絆が深まった参加者たちは最後まで満面の笑みを見せてくれた ❾近畿大学工学部化学生命工学科環境化学研究室の協力の下、レース海域のマイクロプラスチック調査が行われた。調査の陣頭指揮をとった苅部甚一講師 ❿レース海域の海水を採取する選手。みな率先して海水を採取してくれた ⓫レースの合間に古くなったセールでエコバックを作る参加者たち ⓬SDGsレースで利用したJSAF開発のウェブアプリ。ボタンの押しやすさなどの随所に工夫がある ⓭マリーナに隣接するビーチで回収したゴミ。特徴的なのは広島特産の牡蠣の養殖に使われるプラスチック筒が多かったこと

Asia Pacific championships
Para World Sailing championships
hansa HIROSHIMA 2022

JSAF流 共生社会の実現に向けて

2022ハンザワールド広島大会 13カ国から114人のセーラーが参加

2022年10月20日～23日、広島県の広島観音マリーナを拠点にトップパラアスリートが競う「パラワールドセーリングチャンピオンシップ・ハンザクラス広島」と、障がい者と健常者がハンディキャップなしにレースを行うインクルーシブな「2022ハンザクラス・アジアパシフィックチャンピオンシップ」が同時開催され（2大会合わせての通称：2022ハンザワールド広島大会）、世界13カ国から114人のセーラーが参加しました。

写真／青野康広、平井基博
レポート／西朝子（広報委員会）

「2022ハンザワールド広島大会」はコロナ禍以降、日本で初めて行われたセーリングの国際大会（東京2020オリンピックを除く）です。大会直前まで入国規制が続く中でも100人を超えるエントリーがあり、またハンザクラス世界ランキング1位、2位の海外選手が参加するなど、世界選手権にふさわしいハイレベルなレースが行われた一方、"Sailing for Everyone"というハンザクラスの理念のとおり誰もがセーリングを楽しみ、陸に上がればボランティアやサポーターも一緒に和気あいあいとしたアットホームな大会となりました。

ハンザクラスには一枚帆の「2.3」、2枚帆の「303」、2枚帆でツインラダーの「リバティ」という3艇種があり、リバティには重度の障がい者でもセーリングできるように、シートの巻き取りやラダーを動かすモーターを取り付けることができます。モーターを取り付けた「リバティサーボ」では、モーターの操作ボタンをカスタマイズすることで、例えば四肢が動かせなくても顎や、あるいは息を吹きかけることで操船することができるようになり、より多様な人々がセーリングを楽しむ環境を造り上げています。

同時に、上位陣は各クラスともに僅差の接戦が繰り広げられ、最終日まで誰が勝つか分からない白熱した展開となりました。残念ながら、規程時間までに風が吹かず最終日はノーレースとなりましたが、パラスポーツとしてのセーリング競技の奥深さと、ハンディを感じさせず上位を独占するパラセーラーたちの姿に、人間の無限の可能性を大いに感じた大会となりました。

世界遺産・宮島を望む絶好のロケーションにある広島観音マリーナ。バリアフリー設備も整い、新築されたマリーナセンターにはレース海面を一望できるデッキテラスが完備されたことから、3日間で約250人の一般の人がレースを観戦しました。さらにレースのライブ配信も行われ、ブラジルやヨーロッパなどから参加選手の活躍が視聴されるなど、グローバルに広がった大会となりました。

大会会長でもある馬場益弘JSAF会長は、開会式で「セーリングは男女・年齢を問わず、障がいの有無に関わらず、誰もが自分に合った楽しみ方ができるインクルーシブなスポーツで、共生社会を創る"新しいスポーツの力"となっている」とし、「本大会を通じて、セーリングの魅力を世界に発信し、多様性を認め合う共生社会と生涯スポーツとしての価値を一層高めていきたい」と挨拶されました。

本大会はJSAFが目指す共生社会の一つの形を示すことができたのではないでしょうか。

大会同時開催！ SDGsチャレンジ

今大会では、ヨットレースだけでなく環境保全に寄与する評価項目を定めて貢献度を競う「SDGsレース」も同時に行った。選手には大会1カ月前からJSAFが開発した専用ウェブアプリを使って「SDGsレース」に参加することが義務づけられ、大会期間中も様々なアクションで海の豊かさを守る取り組みに参加。これに触発され帰国後も同様の取り組みをすると宣言してくれた参加者もいた。

SDGsレース成績

1位 長谷山 裕（徳良湖ヨットクラブ）
2位 秋山 泰代（セイラビリティ東京）
3位 藤枝 啓称（セイタビリティ広島）

大会前からできる活動とポイント

1	レジ袋を使わなかった	1点
2*	ペットボトル使わなかった	1点
3	ゴミを分別した	1点
4	フードロスを出さなかった	1点
5	節水した	1点
6	化学洗剤を下水に流さなかった	1点
7	省エネに貢献した	1点
8	ゴミの量を最小限にした	1点
9	最小限のプリントアウト	1点
★10	プラスチック容器の食品を買わなかった ツイートしたら追加で2ポイント	2点

大会会場で得られるポイント

11*	会場で環境について話した	2点
12	ボランティアと交流した	2点
13*	帆のリサイクルバッグを作った	5点
14*	検査用海水を採取した	5点
15*	砂浜のプラパイプを回収した	5点

成 績 表

2022ハンザクラス アジアパシフィックチャンピオンシップ（インクルーシブ大会）

〔ハンザ2.3シングル〕（参加18艇）

1位：Allister Peek（オーストラリア） 10ポイント
2位：江島 圭（セイラビリティ江の島） 13ポイント
3位：末田 航（コンスタントウインド） 13ポイント

〔ハンザ303シングル〕（参加38艇）

1位：Piotr Cichocki（ポーランド） 10ポイント
2位：Gauthier Bril（フランス） 13ポイント
3位：丹羽 巧（東京パラスポーツ連盟）15ポイント

〔ハンザ303ダブル〕（参加31艇）

1位：Christopher Symonds/Manuela Klinger（オーストラリア） 6ポイント
2位：Piotr Cichocki/Olga Górnaś-Grudzień（ポーランド） 10ポイント
3位：Raphael Bizieux/Gauthier Bril（フランス） 13ポイント

〔リバティ&リバティサーボ〕（参加9艇）

1位：Bob Schahinger（オーストラリア） 7ポイント
2位：Vera Voorbach（オランダ） 7ポイント
3位：Cristina Rubke（アメリカ） 18ポイント

〔リバティサーボ〕（参加3艇）

1位：Vera Voorbach（オランダ） 7ポイント
2位：Cristina Rubke（アメリカ） 18ポイント
3位：佐々木 亮（セイラビリティ広島） 29ポイント

パラワールドセーリングチャンピオンシップハンザクラス広島（パラアスリート大会）

〔ハンザ303シングル男子〕（参加18艇）

1位：Piotr Cichocki（ポーランド） 10ポイント
2位：Gauthier Bril（フランス） 13ポイント
3位：丹羽 巧（東京パラスポーツ連盟） 15ポイント

〔ハンザ303シングル女子〕（参加7艇）

1位：Olga Górnaś-Grudzień（ポーランド） 22ポイント
2位：Miray Ulas（トルコ） 43ポイント
3位：Alison Weatherly（オーストラリア） 51ポイント

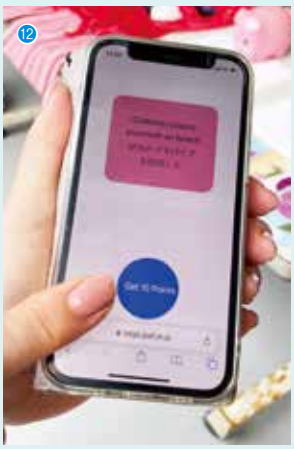
〔リバティ〕（参加7艇）

1位：Vera Voorbach（オランダ） 7ポイント
2位：Cristina Rubke（アメリカ） 18ポイント
3位：John Buchanan（ニュージーランド） 19ポイント

レース特別賞

努力賞：Charin Saleesongsom（タイ）
最優秀女性賞：八木陽子（ピッコラくらぶ）
最優秀ジュニア賞：佐々木椋平（セイラビリティ高松）
最優秀上達賞：Ibrahim Kalay（トルコ）

⬆総合成績表はこちら



2*：大会会場には給水スポットを設置しマイボトルの使用を推奨。参加賞としてアルミボトルを配布
11*：実行委員会環境部が会場内にSDGsブースを設置。パネル等を展示し環境保全をアピール
13*：古くなったセールクロスからエコバッグを作るワークショップを大会期間中に実施
14*：近畿大学工学部生物化学工学科研究チームの協力を得て、レース海面で採取した海水にマイクロプラスチックなどがどの程度含まれているか観察
15*：広島特産のカキの養殖いかだから台風時などに流出するプラスチックパイプを回収。漁業者に返却しリユースを促進

Zeniya
http://www.zeniya-k.co.jp

人と地球環境の未来へ

浮桟橋 ポンツーンの設計・製作・施工

浮きスロープ（ウインチ操作

上下架施設

浮桟橋施設

浮桟橋施設

浮桟橋施設

ゼニヤ海洋サービス株式会社

本社 / 大阪営業所
TEL：072-762-7481
FAX：072-762-5482

東京営業所
TEL：03-6228-7231
FAX：03-6228-7232

九州営業所
TEL：092-692-2562
FAX：092-692-2563

太平洋ひとりぼっちから60年 再び一人で太平洋横断に成功した 堀江謙一さんに聞く

ソロセーラー・海洋冒険家
堀江謙一 Horie Kenichi
×
ヨットデザイナー
横山一郎 Yokoyama Ichiro

日本セーリング連盟はセーリングヨットによる最高齢での単独無寄港太平洋横断の快挙を称え、2022年度の定期表彰にてソロセーラーの堀江謙一さんに「栄光賞」を、ヨットデザイナーの横山一郎さんに「功績賞」を授与しました。表彰後、海洋冒険家として数々の偉業を成し遂げた堀江さんと、親子二代にわたって航海を支えた横山さんに話をお聞きました。

写真／濱谷幸江
インタビュー／西朝子（広報委員会）

堀江謙一さんのこれまでの航海

1962年
ヨット「マーメイド号」単独無寄港太平洋横断（94日）

1973～1974年
ヨット「マーメイドⅢ号」単独無寄港世界一周（ホーン岬西周り275日）

1978～1982年
ヨット「マーメイド号」縦回り地球世界一周航海

1985年
ソーラーボート「シクリナーク号」で世界初のハワイ・ホノルル～父島間の単独無寄港太平洋横断航海

1989年
全長2.8mの太平洋横断では世界最小の小型ヨット「マーメイド号」で単独無寄港太平洋横断（サンフランシスコ～西宮港）

1992～1993年
足漕ぎ（ヒューマンパワー）ボート「マーメイド号」で単独無寄港太平洋横断航海（ハワイ・ホノルル～沖縄）

1996年
アルミ缶リサイクルのソーラーパワーボート「モルツマーメイド号」で単独無寄港太平洋横断（エクアドルサリナス港～東京港）

1999年
業務用ビール樽を利用したリサイクルヨット「モルツマーメイドⅡ号」で単独太平洋横断（サンフランシスコ～明石海峡大橋）

2002年
ウィスキー貯蔵樽材、ペットボトルのリサイクル材を利用したヨット「モルツマーメイドⅢ号」で単独太平洋横断（新西宮ヨットハーバー～サンフランシスコ）

2004～2005年
「サントリーマーメイド号」単独無寄港世界一周の航海（ホーン岬東周り250日）

2008年
波浪推進船（カタマラン）「サントリーマーメイドⅡ号」で単独航海（ハワイ・ホノルル～紀伊水道）

2022年
ヨット「サントリーマーメイドⅢ号」で単独太平洋横断（サンフランシスコ～西宮沖69日）

写真提供／堀江謙一

挑戦することに飽きることはない

——今回60年ぶりに太平洋横断の復路を達成しましたが、こんなに長いことセーリングを続けている秘訣は何でしょうか？

堀江：ヨットというのは長くやれるスポーツですから、そんなに不思議なことではないと思いますよ。僕は15歳でヨットを始めましたが、小学生でもできるし、年齢が上がってもできるし、それこそ障がい者になってもできると思うんですね。競技としてはどうか分かりませんけど、乗り物として目的地に向かっていくのは簡単なことだと思いますね。

——でも堀江さんの場合は太平洋横断だけではなく、世界一周も何度も達成し、様々な大きさのヨットでもひととおり挑戦しています。

堀江：挑戦することに飽きることはありませんね。毎日でもいいんじゃないですか（笑）。まぁ毎日はあれですが、毎年でもいいんじゃないかと思っています。

——ということは、次の挑戦は？

堀江：これまでもコンスタントに挑戦を続けてきましたから、特別なことではなくこのまま流れていくと思います。はっきりしているのは年齢を足していくということでしょうね。

——日本近海を巡るようなこともありますか？

堀江：それも楽しいと思いますよ。これまでも友人と九州一周など楽しんできました。特に瀬戸内海は何度も帆走しています。良いところですよ。途中で出会ったセーラーと、入港する漁港への連絡のタイミングについて、入港前がいいか、入港後がいいか、それとも地元の民宿から連絡してもらったほうがいいのかなんてことをディスカッションしたり、そんなことも楽しいですね。

海に出る人のマナーは確実に良くなっている

——今回、60年ぶりに当時と同じ19フィートのヨットで太平洋を横断しましたが、環境の変化など感じましたか？

堀江：最初の航海の時も今回も、漁具は流れていました。ただ昔の漁具はブイがガラス玉で、今はプラスチックになっていますから、海の中のことまでは分かりませんが環境に影響はあるかもしれませんね。

ただ、最初の航海の時は船から流した廃油というんですか、油が流れていることが多くあったんです。昨年の航海では一度もそれに遭遇していません。昔は世界一周なんかすると、僻地でも廃油が流れていましたからね。逆に言うとそういうところの方が流しやすかったのかもしれません。海に出る人が、昔と比べてマナーが良くなってきているんじゃないかと思います。

公式サイトへ続く
堀江謙一さんと横山一郎さんへのインタビュー全文はこちらから

Topics 1

2022外洋ダブルス（ダブルハンド）日本選手権

【期　間】2022年4月29日～5月5日
【開催地】和歌山県和歌山市～愛知県蒲郡市
【主　催】（公財）日本セーリング連盟（主管 外洋常任委員会）
【協　力】JSAF外洋東海、JSAF外洋内海、和歌山県セーリング連盟、㈱ラグナマリーナ、ラグナマリーナヨットクラブ、NPO法人和歌セーリングクラブ、和歌山マリーナシティヨット倶楽部

******** RACE INFORMATION **********

RACE Name 外洋ダブルス日本選手権2022
Class IRC Class (Total)
Course Type OFFSHORE (200nm)
Race condition
Date 2022/5/1
Start 10:00:00
Time Limit 5/05 12:00:00

******** Entry List ********

JSAF外洋東海

	Sail No	Yacht Name	TCC	番号	Day	FINISH	所要時間	(秒)	修正時間	トップとの差	順位
1	JPN 2500	KLC HORIZON6	0.976	3	5/2	23:32:23	37:32:23	135143	131900		1
2	JPN 5997	SIESTA	1.036	1	5/2	22:31:59	36:31:59	131519	136254		2
3	JPN 5830	SHIKADAI SH	1.003	4	5/2	23:57:29	37:57:29	136649	137059		3
4	JPN 6982	VICKE	1.016	2	5/2	23:29:21	37:29:21	134961	137120		4

ラインオナー〈SIESTA〉
ミックスダブルス1位〈KLC HORIZON 6〉
男性ペア1位〈SIESTA〉
特別賞〈VICKE〉（3位との修正時間たった61秒差でもありベストカップル賞とした）

男女混合外洋ダブルス種目がパリ2024オリンピック種目であったことをうけて、2021年に国内で初めて開催を決めたものの新型コロナウイルス感染症の影響でスタート直前に中止された「外洋ダブルス（ダブルハンド）日本選手権」が2022年5月1日午前10時にスタートした。

ラグナマリーナ沖にフィニッシュするラインオナーの〈SIESTA〉

ユースセーラー約160人に見送られてスタートを切る

コースは和歌山マリーナシティー沖から西に向かい、淡路島の南に浮かぶ沼島（ぬしま）を回航し、紀伊半島をぐるっと回って愛知県蒲郡市のラグナマリーナ沖まで約200マイル。今回の参加は関東、東海、関西の4艇、内3艇がミックスペアでの参加となった。

スタート時は微軽風のコンディション。序盤はゆっくりとした展開だったが沼島を回る頃からペースが上がり、日付が変わる頃には4艇は潮岬を通過していった。

翌朝、ロールコール、4艇は相変わらず接近戦で気の抜けない夜を過ごしたようだった。その後も順調に進行し、伊勢から伊良湖水道に入る頃には日没となった。そしてスタートから36時間31分59秒で〈SIESTA〉がトップでフィニッシュ、〈VICKE〉、〈KLC HORIZON 6〉、〈SHIKADAI〉の順で、日付が変わるまでにフィニッシュした。修正で〈KLC HORIZON 6〉が初代チャンピオンとなった。ダブルハンドならではのセーリングを皆さん楽しんでいたようだった。

今回の大会では、サバイバルトレーニング、医療トレーニング、落水救助訓練などを事前に実施しての参加で、またAISの搭載も義務付け、ロールコールは衛星携帯電話も活用し、TracTrac（衛星回線仕様）も搭載するなど、安全対策を十分に行った。AISを搭載したことで伊勢湾海上安全センターから座礁の危険性があるとして連絡があった。レース艇は十分に危険性を認知してコースを帆走していたが、今後は帆走禁止範囲の設定など主催者としても考えなければならない。

World Sailingはブリスベン2032オリンピックで外洋ダブルス種目の復活を目指し、世界各国で外洋ダブルスを振興してほしいという意向を受け、第2回外洋ダブルス日本選手権大会は本年5月1日に和歌山から蒲郡に向けてスタートする。ぜひ多くの艇に参加してもらいたい。

（外洋常任委員会）

写真／大会実行委員会

HARKEN
ハーケンサプライ合同会社
Mail ：supply@harken.jp
Web ：harken.jp
（輸入元）
ハーケンジャパン株式会社

QUANTUMSAILS™

- TO THE NEXT CHALLENGE -

WHATEVER IT TAKES.

グランプリ&ワンデザインでの勝率の高さ、
ACやTP52シリーズに代表される開発力、
Quantum Sail は更に進化を続ける。

クァンタム・ジャパン

新規セイル、セイル修理、ロープ&艤装品、
マストを含むリグメンテナンス等。
お気軽にご相談下さい。

www.wattsmarine.jp
info@wattsmarine.jp

（株）セイルス・バイ・ワッツ・ジャパン

本社ロフト
〒238-0233 神奈川県三浦市向ヶ崎町8-40
電話：046-882-5451　Fax：046-882-4319

関西営業所
〒662-0933 兵庫県西宮市西波止町1-2 マリンスクエア M-1
電話：0798-23-6410

Topics 2

沖縄 ― 東海 ヨットレース2022

【期　　間】2022年4月26日〜5月8日
【開 催 地】沖縄県宜野湾市〜愛知県蒲郡市
【共同主催】（公財）日本セーリング連盟、JSAF外洋東海
【後　　援】国土交通省、海上保安庁、スポーツ庁、沖縄県、宜野湾市、浦添市、愛知県、蒲郡市、（公財）沖縄県スポーツ協会、NHK沖縄放送局、琉球放送(株)、沖縄タイムス社、琉球新報社
【協　　賛】株式会社瑞光メディカル
【協　　力】JSAF外洋沖縄、宜野湾港マリーナ、（株）ラグナマリーナ、ラグナマリーナヨットクラブ

******** RACE INFORMATION **************

RACE Name: 沖縄東海ヨットレース2022
Class: IRC Class (Total)
Course Type: OFFSHORE (720nm)
Race condition: [illegible]
Date: 2022/4/29
Start: 12:00:00
Time Limit: 5/08 12:00:00

******** Entry List ********　　JSAF外洋東海

	Sail No.	Yacht Name	TCC	[illegible]	Day	FINISH	所要時間	[illegible]	修正時間	ペナルティ	順位
1	JPN 6554	SHALLOW VII	1.071	6	5/4	21:32:19	129:32:19	466339	476132		1
2	JPN 5910	ZERO	1.055	3	5/4	17:28:33	125:28:33	451713	476557		2
3	JPN 6301	MIRANDA	1.083	4	5/4	17:28:37	125:28:37	451717	488306		3
4	JPN 6778	Gaspard 3	1.079	5	5/4	21:21:02	129:21:02	465662	502449		4
5	JPN 6880	CRESCENT IV	1.123	2	5/4	16:16:59	124:16:59	447419	502452		5
6	JPN 6687	STARDUST	1.101	7	5/4	21:42:24	129:42:24	466944	514105		6
7	JPN 6383	MIWA	1.040	8	5/5	9:23:13	141:23:13	508993	529353	[illegible]	7
8	JPN 1122	1122TREKKEE	1.185	1	5/4	16:12:57	124:12:57	447177	529906		8
9	JPN 2606	赤鬼	0.976	9	5/5	15:48:23	151:48:23	546503	533387		9
10	JPN 6757	MONDAY NIGHT	1.235								DNF

*JPN6383 MIWA ロールコール不成立1回につき所要時間に10分加算する。

ラインオナーの〈トレッキー〉

2021年12月、来年の沖縄―東海ヨットレースの公示を出す時期を迎え、開催するか否か外洋東海は悩んでいた。前回（2020年）は中止しているし、この年のパールレースを中止したことが頭から離れなかったからである。

本レースには長距離回航が必要なことから、環境悪化した場合、第一段階の中止のタイミングは参加艇の回航が始まる前となる。それを過ぎれば行くところまで行くしかない状況だ。常に最悪のことを想定しながらも平常時の準備を強いられ、スタートを迎えるまでの間プレッシャーを感じ続けることになる。

コロナが低調になることを期待し、前夜祭の準備もしていたが、結果的には前夜祭はもちろん艇長会議、安全講習会の対面開催はできなかった。レースに不可欠な艇長会議はオンラインで開催し、インスペクションは感染対策に充分配慮した上で実施し、スタート本番を迎えた。

スタート海面に雄姿を現したのは、関東から5艇、東海から2艇、関西から2艇、広島から2艇の全10艇である。よく晴れ渡った絶好のレース日和で、全艇正午にスタートし、快調に帆走しながら波間に消えていった。

2010年に始まったこのレースは隔年開催で、今回が7回目（前回第6回はコロナのため中止）。第2回目の2012年には落水死亡事故をはじめ4件の事故が同時に発生したように、レース期間中に何度も荒天を迎えることが避けられないことが多いが、2022年に限っては荒れることの少ない珍しいレースであった。

10艇中1艇〈マンデーナイト〉がリタイアしたが、8艇が5月4日、1艇が5日に蒲郡にフィニッシュした。また、720マイルという国内最長の外洋レースで6日間帆走したにもかかわらず、1位と2位の差が僅か4分、3位と4位にあっては瞬間と言える4秒という演出したような結果に。ラインオナーは関東の〈トレッキー〉、優勝は東海の〈シャロンⅦ〉、2位は広島の〈ゼロ〉、3位は関西の〈ミランダ〉だった。

振り返ると、この3年間はレースを開催する立場の難しさを再認識した期間であった。長距離の数日に及ぶレースの場合、参加する側も準備に費用、労力を費やし、それなりの覚悟をもってエントリーしてくるので、主催者側としてはこれらのことを充分に汲んだ上で的確な判断をしていかなければならない。

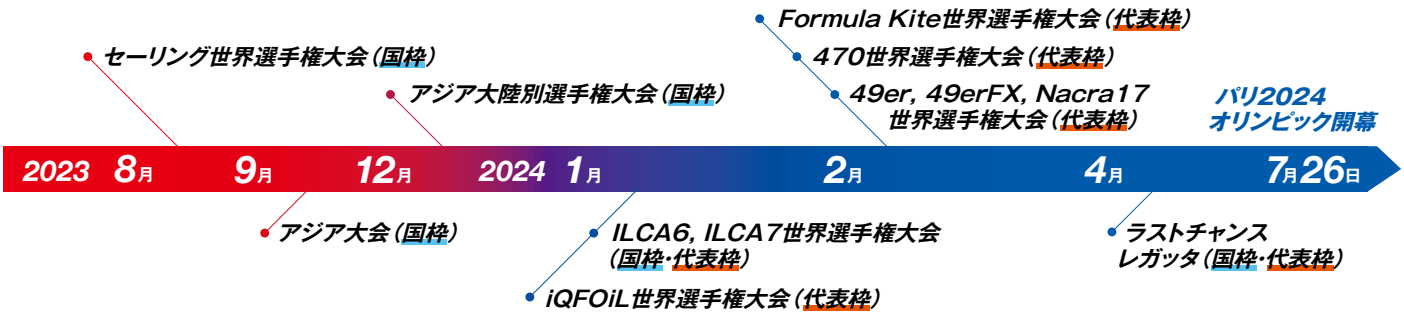
平常時ならある程度トラブルを予測もできるが、コロナ禍では如何に対応するか想像すらできないのである。一連のコロナ対応は大きな経験になったことは間違いないので、必ずやこの経験を今後に活かすことが大切だと考えている。

（大会会長　坂谷定生）

写真／大会実行委員会

Topics 3

パリ2024オリンピック代表選考方法について



来年に迫ったパリ2024オリンピックに向けた代表選考プロセスは、①国枠の獲得 ②代表選手選考会の2つに大別されます。①については、2023年8月にオランダ・ハーグで行われる「セーリング世界選手権大会」（オリンピッククラスの全種目の世界選手権を同時開催する世界最大規模のイベント）に始まり、9月の「アジア大会」（シングルハンドのみ対象）、12月の「アジア大陸別選手権」、2024年4月の「ラストチャンスレガッタ」と大きく4回の国枠獲得のチャンスがあり（ILCAは2024年の世界選手権を含めて5回）、日本としてオリンピックの国枠を獲得できるかどうかの勝負が繰り広げられます。

他方で、代表選手は国枠獲得をした選手が自動的にオリンピックに行けるわけではなく、まず2024年のクラス別世界選手権において参加艇数の50%以内にはいらなければならないという選考基準をクリアする必要があります。かつ、それらの成績と、ラストチャンスレガッタの成績を総合したものが最終成績となって、代表選手が決まります。また、①（一部を除く）で国枠を獲得した場合や、2024年度クラス別世界選手権において3位以内に入った場合はボーナスポイントも付与される仕組みとなっており、代表に選ばれるためにはどの大会においても良い成績を取り続ける必要があります。

2023年8月のハーグから2024年4月にかけて世界を舞台に繰り広げられる選手達の熱い戦いに、どうぞ温かい応援をよろしくお願いいたします。（オリンピック強化委員会委員長 宮本貴文）

⬆代表選考に関する詳細はこちら

Topics 4

早くも成果が出始めた「HOPE育成プログラム」

オリンピック強化委員会は2022年4月より新体制としての活動を開始しており、新体制下における3つの柱として「パリオリンピックでのメダル獲得」「ロスオリンピックを見据えた強化戦略の構築・次世代選手の育成」、「人的・物的資源配置の最適化」を掲げています。

特に、2021年に開始した次世代選手を対象とした「HOPE育成プログラム」においては、和歌山ナショナルトレーニングセンターおよび沖縄県座間味村・境港公共マリーナ・江の島ヨットハーバーの各JOC認定強化センターと、各分野における専門スタッフの方々のご協力の下、13～23歳までの幅広い年代の高い能力を秘めた選手達が、艇種の垣根を越えて一か月に10日間程度を目安として一つ屋根の下に集い、帆走技術の向上のみならず、フィジカルに関する理論と実践や、ルール・栄養・メンタル・インテグリティ・英会話学習といった総合的な人間力の向上を目指して、お互いに継続的に切磋琢磨することのできる環境を整えています。

プログラムは、HOPE「Basic」「Advance」「Racing」の3つにカテゴリー分けがなされ、選手のレベルに応じた指導を受けることが可能な仕組みになっており、BasicとAdvanceでしっかりと基礎を積んでカリキュラムを履修し、Racingへの昇格を勝ち取ることができれば、早期にナショナルチームと同等の海外遠征補助を受けながら、海外のレベルの高いレースに積極的に出場することも可能となります。

また、ロサンゼルス2028オリンピックにおいて同プログラムの中からメダリストを輩出することを目標として、日々プログラム内容の改善に取組んでおり、2022年度には同プログラムの第一期生である市橋愛生／後藤凛子組が2022年29er世界選手権で銀メダルを獲得するなど、成果も着実に出てきていると認識しています。

現在、HOPE育成プログラムにはAdvance 12名、Basic8名の合計20名が在籍をしており、2023年10月頃には第四期生の公募を行う予定です。

オリンピックでのメダル獲得という明確な目標を持った、熱意ある選手・保護者の皆さん、ぜひHOPE育成プログラムの門戸を叩いて頂き、一緒に頑張って参りましょう。（オリンピック強化委員会委員長 宮本貴文）

⬆ HOPE育成プログラムの詳細はこちら

気象・ルール・メンタルなどの講義を真剣に聴く選手たち

2022年の29er世界選手権で銀メダルを獲得した市橋／後藤組は、沖縄座間味村で行われたプログラムで49erFXでのトレーニングを始めた

写真／平井淳一 BULKHEAD magazine

追悼 河野博文名誉会長

2022年11月5日、2011年から公益財団法人日本セーリング連盟の会長としてセーリング界の発展に貢献され、また東京2020オリンピックのセーリング競技を成功に導いた河野博文名誉会長が逝去されました。76歳でした。ここでは長年にわたり故河野名誉会長と伴走してきたお二人に、在りし日の姿を偲んでいただきます。

2018年に行われた「セーリングワールドカップシリーズ江の島大会」で束の間の休息　写真／濱谷幸江

公益財団法人 日本セーリング連盟 顧問　桑原 啓三

「だっておかしいじゃないか！」――オリンピック準備委員会として一緒に動いていた9年間で何度あなたのこの言葉を耳にしたことでしょう。相手が誰であろうと納得いくまで食い下がり議論するあなたの姿を何度も目にしていました。

東京２０２０オリンピック開催が決まった直後にあなたが立ち上げたオリンピック準備委員会では、セーリング競技に精通した人材が必要との観点から、オリンピックに向けてどの競技団体よりも早く「競技ボランティア」の募集を始めました。その結果６００名を超える登録を得て、ワールドカップなど数多くの国際大会の競技運営に携わっていただきました。２０１９年にオリンピック組織委員会が正式にボランティア募集をかけた時には、彼らは既に素晴らしい熟練度とチームワークを発揮し、セーリング競技運営になくてはならない存在になっていました。

ところが、組織委員会は「オリンピックボランティアはあくまでも公募の中から組織委員会が判断し割り振る」というのです。それでは、折角育った彼らがセーリングに配属される保証がありません。あの時もあなたの「だっておかしいじゃないか！」がさく裂、担当者ではらちが明かず、組織委員会上層部を江の島に呼び「セーリングボランティアは応募の際に特別の記号を付けて応募する」ことで決着。彼らはオリンピックでも素晴らしいチームワークと活躍で、ＩＯＣをして「過去のどの大会よりも素晴らしい競技運営だった」と言わしめました。

オリンピックはコロナウィルスの蔓延で、残念ながら無観客での大会となってしまいましたが、このセーリングボランティア組織は、あなたが残してくれた素晴らしいレガシーのひとつです。

目を閉じると今でも「Thank you!」と言ってニコッと笑ったあなたの姿がよぎります。

河野さん、長い間お疲れさまでした。そしてありがとうございました。どうぞ安らかにお眠りください。

公益財団法人 日本セーリング連盟 顧問　中川 千鶴子

河野博文名誉会長と私は学習院中・高等科の同窓生であり、大変長いお付き合いでした。河野さんは、中・高等科時代から頭脳明晰、スポーツ万能、スマートで3拍子も4拍子も揃った好青年で、彼の評判は3学年上級の私にも聞こえてきていました。

東京大学に進まれた河野さんは、同校のヨット部に入部されましたが、当時私も学習院大学ヨット部に所属しており、横浜のヨットハーバーで艇庫がお隣同士だった事もあり、大学ヨット部時代においてもご縁がありました。

その後、私は日本ヨット協会、後の日本セーリング連盟の理事に就任しておりましたが、同連盟設立2年後の２００２年に河野さんが副会長として招聘され、２０１１年には会長に就任されました。私は翌年に河野会長に推挙頂き、初の女性副会長に就任しました。

私は、理事の時代から、女性アスリートがジェンダーに関係なく同じ良い環境で競技に参加できることを実現すべく努力して参りましたが、２００２年の高知国体の会場に「チャイルドルーム」を設置することに成功し、その後の国体でも実施してきました。その流れから、東京２０２０オリンピック大会江の島セーリング会場にも「チャイルドルーム」を設置すべく準備してきましたが、残念ながら２０２１年になってもコロナ禍は収束せず、セーリング会場も無観客でということとなり、「チャイルドルーム」設置は実現に至りませんでした。

ともあれ、その間に河野会長から頂いた最大級のご支援には深く感謝致しております。

毎年開催されます国民体育大会やリハーサル国体に河野会長に随行させて頂きましたが、その際のエピソードを一つ。

河野会長は卵かけご飯が大好物でした。宿泊先にての朝食前に河野さんはいつもお一人で地元のお店で買い求めた新鮮な卵を入れたビニール袋をぶら下げて宿舎に戻られ、私達にも卵を分けて下さるのが常でした。心が和む思い出の一つです。

最後に、河野会長は東京２０２０オリンピックのセーリング競技が国際的に成功裡に無事終了する事を一心に願い、出来得れば日本のメダル獲得にも希望を抱かれ、これに命をかけられたのではないでしょうか。

無くてはならない方を失いました。あまりにも早すぎるお別れです。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

2021年に開催された「東京2020オリンピック」最終日に関係者一同と
写真／平井淳一　BULKHEAD magazine

ONE
OCEAN NETWORK EXPRESS

"AS ONE, WE CAN."
運んでいるのは、ひとり一人の毎日。

OCEAN NETWORK EXPRESS (JAPAN) LTD.

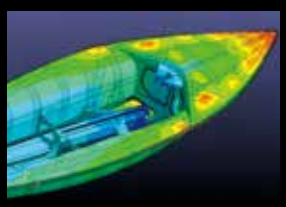
jp.one-line.com

YAMAHA
Revs Your Heart

YAMAHA 470 ACPH

新時代のヨンナナマル

YAMAHA 470 ACPHは、船型・構造を根底から見直し、数々の国際レースのなかで磨き上げられた次世代レーシングディンギーYAMAHA 470 CPHの船体を採用した学連向けスペシャルモデル。そのパフォーマンスはセーラーのテクニックに応えるばかりでなく、潜在能力さえをも引き出します。



蓄積された技術を結集

YAMAHA 470 CPH／ACPHの開発コンセプトは「帆走時の艇体抵抗の減少」「規定重量を堅持しつつ剛性を向上」「艇体慣性モーメントの最適化」。ヤマハが長年にわたって培ってきた「3D形状計測技術」「モーダル解析技術」「FEM解析技術」等を駆使しています。

YAMAHA 470 CPHに関するお問い合わせ

受注・販売は、ヤマハ発動機が業務委託をしているオクムラボート販売株式会社にて承ります。
オクムラボート販売株式会社　兵庫県姫路市的形町的形2013　TEL：0792-54-5630

470　オクムラ　検索
https://www.okumuraboat.co.jp/dinghy/470/

ヤマハ発動機株式会社

2023年度 全日本選手権等セーリング競技日程

（2023年4月1日～2024年3月31日）

2023年3月16日現在

最新情報は公式サイト「Event Calendar」でチェック!

期 間	大会名称	会 場	主催団体等
4/20～4/28	小笠原レース2023	神奈川県三崎 ⇒ 東京都小笠原村父島	日本オーシャンセーラー協会
5/4～5/6	JOCジュニアオリンピックカップ 兼 JSAFジュニア・ユースセーリングチャンピオンシップ （ユース部門）420、29er、ILCA6、iQFOiLクラス"	和歌山セーリングセンター	JSAF・和歌山県セーリング連盟
5/4～5/6	スプリングレガッタ 兼ILCA4 All Japan Championships	佐賀県唐津市 唐津ヨットハーバー	日本レーザークラス協会
4/29～5/5	外洋ダブルス日本選手権2023	和歌山県和歌山市 ⇒ 愛知県蒲郡市	JSAF外洋常任委員会
6/22～6/25	ASAF Sailing Cup JSAF江の島オリンピックウィーク2023	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	JSAF
6/30～7/2	第32回全日本A級ディンギー選手権大会	福岡県 小戸ヨットハーバー	日本A級ディンギー協会
7/8～7/9	第38回全日本スナイプ級ヨットマスターズ選手権大会	兵庫県西宮市 西宮ヨットハーバー	日本スナイプ協会
7/14～7/17	全日本ミドルボート選手権	愛知県ラグナマリーナ蒲郡	日本ミドルボート協会
7/27～7/30	第64回 パールレース	三重県南伊勢町五箇所湾沖 ⇒ 神奈川県藤沢市江の島沖	JSAF外洋東海
7/29～7/30	JOCジュニアオリンピックカップ 兼 JSAFジュニア・ユースセーリングチャンピオンシップ （ジュニア部門）OP、ILCA4クラス	和歌山セーリングセンター	JSAF・和歌山県セーリング連盟
8/12～8/16	令和5年度全国高等学校総合体育大会ヨット競技 第64回全国高等学校ヨット選手権大会	和歌山セーリングセンター	和歌山県セーリング連盟 全国高体連ヨット専門部
8/19～8/20	全日本チームレース選手権大会	広島県広島市 観音マリーナ	広島県セーリング連盟
8/23～8/27	第76回全日本スナイプ級ヨット選手権大会	愛知県 豊田自動織機海陽ヨットハーバー	日本スナイプ協会
9/2～9/3	第22回29er級全日本選手権大会	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	日本29er級協会
9/6～9/10	全日本470級ヨット選手権大会	宮城県名取市 閖上ヨットハーバー	日本470協会
9/9～9/10	ウインドサーファークラス全日本選手権大会	神奈川県藤沢市片瀬東浜	日本ウインドサーフィン協会
9/16～9/18	全日本オプティミスト級チームレース選手権大会	広島県広島市 観音マリーナ	日本オプティミストディンギー協会 広島県セーリング連盟
9/16～9/18	高松宮妃記念杯第68回全日本実業団ヨット選手権大会 第24回全日本セーリングスピリッツ級選手権大会 2023年全日本セーリング選手権大会	佐賀県ヨットハーバー	JSAF国体委員会 セーリングスピリッツ協会 鹿児島県セーリング連盟 全日本実業団ヨット連盟
9/16～9/17	Laser Class 全日本マスターズ選手権大会	三重県津市 津ヨットハーバー	日本レーザークラス協会
9/2～9/3	全日本49erクラス選手権大会 全日本49erFXクラス選手権大会	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	日本49erクラス協会
9/23～9/24	第12回ひろしまピースカップ 兼 第2回インクルーシブセーリング全日本選手権大会2023 兼パラセーリング全日本大会2023in広島	広島県広島市 観音マリーナ	JSAF障がい者セーリング推進委員会 広島県セーリング連盟
9/30～10/1	オープンスキフクラス全日本選手権大会	兵庫県西宮市	日本オープンスキフクラス協会
10/8～10/11	国民体育大会鹿児島国体セーリング競技会	鹿児島県鹿児島市 平川特設セーリング会場	JSAF国体委員会
10/7～10/8	第50回ホビーキャット16級全日本選手権大会	静岡県 浜名湖	日本ホビークラス協会
10/7～10/8	第50回ソリング級全日本選手権大会	長野県諏訪湖	日本ソリング協会
10/7～10/8	全日本シーホース級ヨット選手権大会	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	日本シーホース協会
10/14～10/15	テクノ293クラス全日本選手権大会	神奈川県鎌倉市 材木座海岸	日本ウィンドサーフィン協会
10/14～10/15	2023年度全日本トッパー級選手権大会	未定	日本トッパー協会
10/28～10/29	シーホッパー全日本選手権大会	香川県高松市 せとうちサスティナブルヨットハーバー	日本シーホッパー協会
10/7～10/8	第59回全日本K16級ヨット選手権大会	神奈川県藤沢市 江の島ヨットハーバー	日本K16クラス協会
11/1～11/5	第88回全日本学生ヨット選手権大会	福岡県 福岡市ヨットハーバー	全日本学生ヨット連盟
11/2～11/5	第36回全日本420級ヨット選手権大会	和歌山セーリングセンター	日本420協会
11/2～11/5	第50回ドラゴンクラス全日本選手権大会2023	兵庫県西宮市 新西宮ヨットハーバー	日本ドラゴン協会
11/11～11/12	2023年全日本スナイプ級ジュニアヨット選手権大会 兼2023年全日本スナイプ級ミックスヨット選手権大会	福岡県 福岡市ヨットハーバー	日本スナイプ協会
11/11～11/12	RS JAPAN OPEN2023 兼RS AERO全日本選手権	神奈川県葉山森戸海岸沖	日本RSクラス協会
11/15～11/17	全日本学生ボードセーリング選手権 個人戦	沖縄県国頭郡国頭村オクマビーチリゾート	日本ウインドサーフィン協会
11/16～11/19	第55回全日本オプティミスト級セーリング選手権大会	香川県高松市 高松市ヨット競技場	日本オプティミストディンギー協会
11/23～11/26	第43回ミニトン全日本選手権大会	鹿児島県鹿児島市 谷山港	日本ミニトン協会
11/24～11/26	第10回全日本Melges20クラス選手権大会	神奈川県 葉山マリーナ	日本メルジェス協会
11/23～11/26	2023Laser All Japan Championships ILCA6/7	鳥取県境港市 境港公共マリーナ	日本レーザークラス協会
2月下旬or3月上旬	第12回 JYMA選抜 大学対抗&U ヨットマッチレース 兼 2024全日本ユースマッチレース選手権大会	愛知県 三河湾	日本ヨットマッチレース協会
未定	テーザー全日本選手権大会	滋賀県柳が崎ヨットハーバー	日本テーザー協会
未定	iQFOiLクラス全日本選手権大会	未定	日本ウインドサーフィン協会

SHOWA

ショーワグローブ株式会社
www.showaglove.co.jp

GO BEYOND™

www.northsails.co.jp

NORTH SAILS

1932年（昭和7年）創刊のヨット、モーターボートの専門誌。
特にセールボート（ヨット）の専門誌としては国内唯一。
90年の歴史を超えて、いまなお進化し続ける雑誌です。
「新たなマリンライフスタイルマガジン」をテーマに、
“海と人をつなぐ”雑誌を目指します。

新連載 全国ヨット部名鑑

全国の大学、高校、
中学、ジュニア、実業団の
ヨット部、同好会を
紹介する新連載。

**あなたの部にも
取材がくるかも！**

2023年 Kazi誌の主な特集 （内容は変更する場合があります）

5月号（4/5発売）	・長距離航海への夢想 ・ようこそ、セーリングの世界へ
6月号（5/2発売）	・安全対策考 生きて帰る ・鈴木晶友グローブ40への道、完結
7月号（6/5発売）	・雨が晴れたらヨットを出して ・ジブリで見つけたヨットの世界
8月号（7/3発売）	・君は外園潤平になれるか？ ・厳選快適グッズ 夏クルが待ちきれない
9月号（8/4発売）	・ゆるクルな日々 ・セーラー第二の人生
10月号（9/5発売）	・銀河帆走の夜 ・デイセーラーじゃないとダメな理由
11月号（10/5発売）	・絶景の水平線 ・レースで勝つためのQ&A
12月号（11/4発売）	・ヨットとキャビンがある暮らし ・魂のKazi ラーメン

社員募集

■営業 ■編集 ■グラフィックデザイナー など　出版社の仕事を志望されている方のご応募をお待ちしています。

雇用形態	正社員または契約社員
対象となる方	学歴不問、舵社の業務に興味のある方
待遇	年齢、経験を考慮して優遇。社会保険完備
休日	土日祝日、年末年始

応募方法 履歴書および自己PR文（デザイナーは作例でも可）を下記まで郵送
〒105-0013
東京都港区浜松町1-2-17 ストークベル浜松町3F
舵社 総務部 宛て　TEL：03-3434-5181

舵社ホームページ
https://www.kazi.co.jp

Kazi編集部 メールアドレス
kazi@kazi.co.jp

JSAF選手強化パートナー

ONE OCEAN NETWORK EXPRESS
SPN Security Protection Network
巴工業株式会社
JAPAN AIRLINES
GTi グロリアツアーズ
YBC ヤマザキビスケット
伊藤超短波株式会社
H/H
J-Will Group
zhik
SHOWA
株式会社丸玉運送
Fujiya Fujiyashoji co., ltd
ラジエ工業(株)

環境キャンペーン協賛社

JFE
YANMAR

JSAF賛助会員

YANMAR
とらや
Fujiya Fuj yashoji co., ltc
Kazi
日建リース工業株式会社
一般社団法人 日本マリーナビーチ協会 Japan Marina & Beach Association
YAMAHA
DAIKO
miki HOUSE
BLUE OCEAN
nippon Compass
NORTH SAILS
Mikasa
SEE@SEA
SAILFAST
SEINO DB SCHENKER Schenker-Seino Co., Ltd.
GTi グロリアツアーズ
人と地球環境の未来へ Zeniya
BASIC Confertas Office
損保ジャパン日本興亜
MS&AD あいおいニッセイ同和損保
TMS トヨタ自動車東日本
公益財団法人 日本海事広報協会 海の日
HARKEN
RIVIERA RESORT
Benesse
TOYOTA 豊田自動織機
Trans ACT Co.,Ltd.
MARIN PLACE TOKYO SUPPORT FOR SAILING
テクノヒル株式会社 TECHNOHILL
株式会社 宅配
LAGUNA MARINA
ABURATSUBO YACHT HARBOR MISAKI MARINE
SPN Security Protection Network
スバル興業(株) 東京夢の島マリーナ
Performance Sailcraft Japan
PERFECT RISK FOLLOW
SHOWA

J-SAILING JAPAN SAILING FEDERATION
NO.118

2022年もコロナ禍による影響は続いていましたが、国内のセーリングシーンには賑わいが戻ってきました。茨城国体が開催され、パールレースも実施され、10月にはパラアスリートが多数参加したハンザクラスの国際大会が広島で行われました。誰もがセーリングを楽しめる笑顔満開「ハンザクラスワールド」の写真を表紙にしました。撮影は青野康広さん、平井基博さんです。

J-SAILING No.118
2023年3月31日発行　通巻472号
発行／公益財団法人日本セーリング連盟広報委員会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階 902号室
電話　03-6447-4881　ファクス　03-6447-4882
E-MAIL head@jsaf.or.jp
発行人／馬場益弘　編集人／森融果
エディター／西朝子　デザイナー／岡田勇気
定価／300円(JSAF会員は会費に購読料が含まれています)
https://www.jsaf.or.jp

JAPAN AIRLINES

スポーツを愛する人の翼でありたい。

大きな目標に向かって、日々練習に励む人たち。

みんなで力を合わせて、次世代に夢や希望をつないでいく人たち。

JALは、そんな勇気あふれるアスリートたちに寄り添いながら、

一人一人の未来を応援し続けます。

さぁ、これからも次の自分に向かって、力強く飛ぼう。

JAL

明日の空へ、日本の翼

YBC
ヤマザキビスケット

ビター&スイート
の絶妙なおいしさ。

2023年3月31日発行　通巻472号
J-SAILING
JAPAN SAILING FEDERATION
定価300円
NO.118